

(大島郡笠利町土浜)

位置と環境

遺跡は奄美空港より南へ約4km離れた、背後に急斜面で迫る小起伏の山地をひかえ、南方に海を望む標高約16~18mの比較的なだらかな海岸段丘状に立地している。

調査の経緯

主要地方道龍郷・新奄美空港線回両事業に伴って、昭和62年に発掘調査が実施された。調査面積は1,200㎡である。

遺構と遺物

旧石器時代・縄文時代の遺物が発見された。特に、旧石器時代の遺物は奄美諸島で最初の発見であり、また、III層下部でAT火山灰・II層下部でアカホヤ火山灰が検出され、九州島と同様の鍵層が得られた。

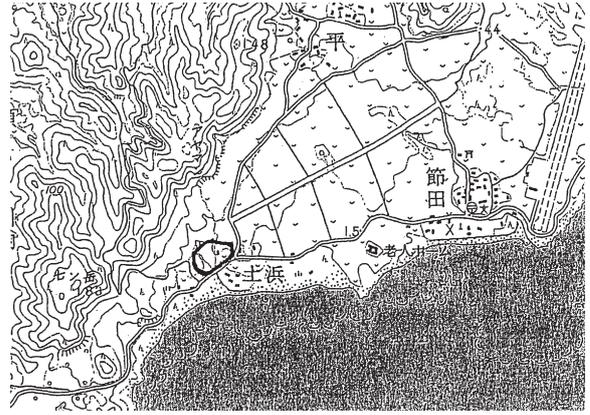
IIIc層で34点の遺物が約4mの範囲に散在して出土した。研磨痕のある石器3点、剥片11点、碎片20点である。遺物はIIIc層最下部で出土した。これはAT火山灰の下位の出土である。この層の炭化木片の放射性炭素測定の結果、21,400~∞Y.B.Pの絶対年代が測定された。

研磨痕のある石器は、研磨痕・形態より磨製石斧が想定される。

IIIb層下部からはスクレイパー1点と剥片3点が出土した。この層からは炭化木片が多く検出され、絶対年代は、18,600±230Y.B.Pの結果が測定された。スクレイパーはやや硬質の頁岩を石材とし、剥片も同石材を用いている。

縄文時代

II層下部より磨製石斧2点、石鏃1点、土器片10



第1図 土浜ヤーヤ遺跡の位置

数点が出土した。土器片は細片のため時期等比較することが出来なかったが、同層にアカホヤ火山灰が検出されたことから、この時期に極めて近いものと考えられる。石鏃は先端部を欠損しているが、チャート素材にしたよく整形されているものである。

特徴

奄美諸島で初めて旧石器時代の遺物が発見され、また、AT火山灰・アカホヤ火山灰が検出されたことにより、奄美諸島でも九州島と同様の鍵層が得られた。

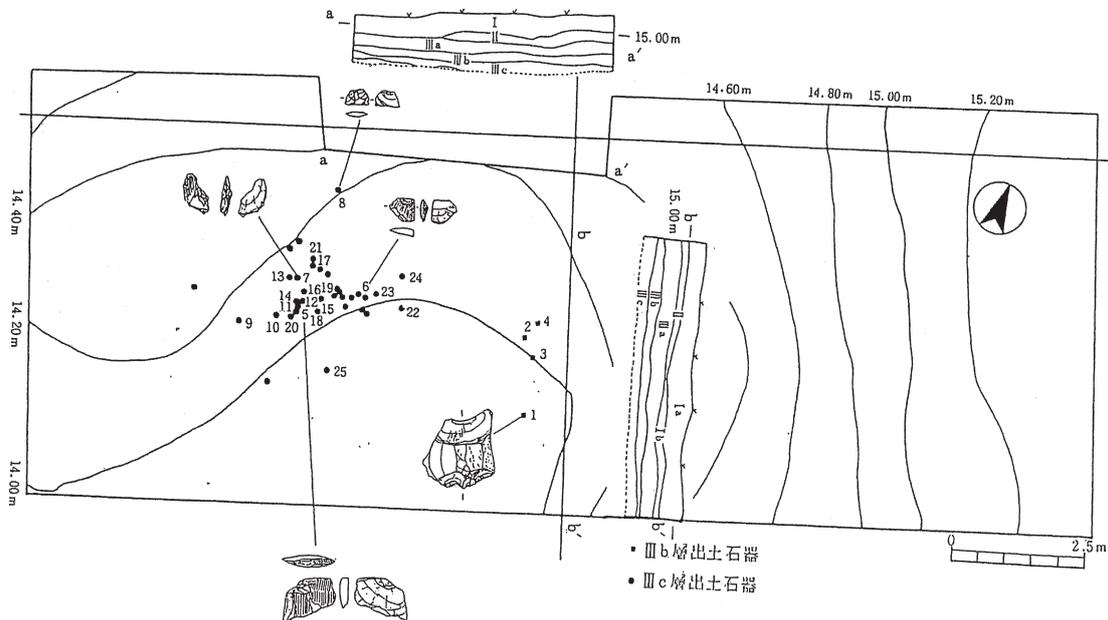
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県教育委員会1988「土浜ヤーヤ遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』47

(牛ノ濱修)



第2図 遺物出土状況